

新年のご挨拶



森田 俊作(写真中央)
1979年卒
大樟春秋会 会長
大和リース株式会社
代表取締役会長

新年あけましておめでとうございます。

年末に、この春秋会創設に大きく関わられた井阪健一様の訃報をお聞きしました。「自分は巨人の肩に乗っただけだ」とはかのアイザック・ニュートンは『万有引力の法則』を発見したおりに先人の敬意を表し、過去の成果の蓄積を活かす想いを伝えたそうです。我々も偉大な先輩の想いを後輩達に継いでいかななくてはと気持ちを新たにしました。

16年ぶりの世界総選挙ともいえる2024年が終わり、今年はG7をはじめとした国家の指導者の多くが、少数与党を率いる不安定な政局を迎えます。2025年は「潮目」の1年となりそうです。

一方、コロナ禍で空回りした感のある東京オリンピックから4年、55年ぶりの『大阪・関西万博』が諸問題を抱えつつ、この春開催となります。これも関西経済復興の一つの「節目」になるかどうか興味は尽きません。

思えば昨年と同じ頃に原稿を書いていた。元日には「能登半島地震」が起きました。当社では、応急仮設住宅を建設するために1月4日には現地の体制を整え、かつてない早さで着手しましたが、交通インフラの麻痺によりお引渡しまでに随分と時間がかかりました。9月には集中豪雨災害がおき、初めての複合2次災害も記録する事となりました。被災者の皆様には改めてお見舞いを申し上げます次第です。

長期化するウクライナやガザ侵攻、パリオリンピックの日本選手、大リーグの大谷選手の活躍からAI開発競争、新札発行、被団協のノーベル平和賞受賞まで、本当に慌ただしい一年でした。でもたとえ世界の指導者が変わろうとやはり我々の社会は我々一人ひとりがつくるものだと思います。より良い社会になるように、**今日の自分は昨日の自分に克ち、明日の自分は今日の自分に克つ『克己心』**を忘れず、後輩諸君にはエールを送り続けたいと思いますので会員の皆様ともに頑張りましょう。皆様の更なるご健勝を心よりお祈り申し上げます。

高岡 伸夫(写真左)
1975年卒
大樟春秋会 副会長
株式会社タカショー
代表取締役社長

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

偉大な多くの経済人、経営者を輩出いたしました大阪経済大学には旧年中は、森田会長を中心に、事務局、大学の皆様には、感謝申し上げます。

又昨年もご入会されました新進気鋭の経営者や大手中堅企業の幹部の皆様には、大いなる期待をしております。

ビジネス経済を通じお役に立てる多くの経営者を生んできた大阪経済大学の春秋会は経営経済分野を通じ、皆が一つとなり、社会人の学び舎と思います。

景気は人口減や物価高など、マイナス要素もありますが、急速な生成AI、チャットGTP、DXデジタル化の推進など、経営者にとっては大変ですが、仲間が手を取り合いながら、

「大経大・DAIKEIDAI」の誇り高き学び舎の歴史とつながり最大限に生かし、公私とも会員さまの成長になればと思います。

大樟春秋会が皆様のご活躍に貢献すると共に、母校大阪経済大学の学生が日本の未来を切り開く為の一助となることを祈念しております。

本年も引き続きご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

太田 剛(写真右)
1983年卒
大樟春秋会 副会長
株式会社ハブ
代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

春秋会会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年、本学においては国際共創学部・国際共創学科が開設され、新たな挑戦が始まりました。2032年の創立100周年に向けて着実に歩みを進められている様に感じます。

一方で、少子化や物価上昇などの影響を受け、大学経営を取り巻く環境はより一層厳しさを増しているのも事実です。

そんな今だからこそ、卒業後に企業で活躍できる学生を育成していくため、社会でご活躍されている大樟春秋会の皆様が蓄えた知恵と経験を、大学と連携しながら現役学生に伝えていくことの重要性は更に高まっていると思います。大阪経済大学がこれからも輝き続けることが出来ますよう、本年もご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

